

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階



第41版

想い伝える
園と繋がる

平素より弊社サービスをご愛顧頂きまして、ありがとうございます。カグヤクルーが日ごろより全国の園の先生方とご縁を賜り、気付いた想いや価値観、社内での実践を記事にしております。是非ご覧下さい。

善いものに変える真心

大分県にある南春日保育園園長の長澤先生は、去年より主任から園長に就かれました。園には事務の方がいらっしやらないため、多くの仕事を抱えながら園長の仕事をスタートされました。今回園へお伺いすると、この短期間のうちに、以前の先生主導型の保育から、発達に伸び子ども達が選択のできる保育の環境設定に変わっており、スタート時に抱えていた多くの課題が改善されていることに驚きました。

長澤先生に伺うと、同じ保育理念を掲げる近隣の保育園へ見学をお願いし、学んだことを取り入れながら、実践と改善を繰り返されてきたそうです。普段は慣れない事務作業や監査書類に追われ、机の前で過ごすことが多く、園長の役割だと



「今という瞬間に無駄はない」と感じる1日でした。

先日熊本県の城山保育園へ伺いました。園長の豊田先生とお話する中で、園の行事についての話題になりました。他園で行事について伺うと「大変なんだよね。」と話されるケースが多いのですが、豊田先生は、「最近行事が楽しくなりました。職員が、行事が楽しくてしようがないと言っています。」と仰います。会社のことと置き換え振り返ってみると、日々の業務に追われ、社内



給食(和食・洋食)によって服装を変えているそうです。

の行事が大変だと思うことがあります。大変だと思う時に感じる課題は、自分が受け身の時です。一方で、自分から考え動いている時や、子どもたちや仲間のこととを思い動いている時には、楽しさがあります。忙しいあまり、楽になりたいと思いがちですが、忙しい時ほど、「いかに楽しくするか？」への変換が大事だと感じています。

楽しんでる職員の人数が多い園は、雰囲気も明るく、自分から自分の出来ることに取り組む大事さを気付かせて頂きました。

先生方が楽しんでいれば、自ずと子どもたちも楽しい！この園の子どもたちが羨ましい限りです。子どもたちのためにも楽より楽しい方を優先していきたいと思えます。

楽

気づき



Plan Do SeeからDo See Planへ

茨城県のある保育園でのエピソードです。見守るほいくソフト導入後、約半年が過ぎ数回の発達記録を行ったとのことで今回、現状のソフトの利用状況、気づきをお聞きしました。主任先生から、「職員が凄く使いやすい！と言って喜んでいきます」と仰って頂きました。どのような点で使いやすいのかお聞きすると、「子どもたち一人ひとりの発達状況と、次の課題を把握できるので、一人ひとりの発達を

保証する保育が遣りやすくなった。今では、職員同士の発達の話し合いが増えました。」と仰って頂きました。職員同士が子どもたちの発達を保証するためにチームになり、助け合う姿に子ども主体の保育を実践されていることを感じました。保育計画の立て方も、これまでの「Plan Do See」から「Do See Plan」へ切り替えたことも大きな実践と変化だと感じています。また、その後、園長先生にお電話で、職員の皆さんの頑張りをお伝えすると、「気がついたら私が一番理解できていないのですよ。あははは！」と軽快なお声と共に、「職員と頑張ります。」と仰る姿には、先生方を見守る園長先生の眼差しが想像できる機会を頂きました。

CCN Caguya Company News カグヤニュース

※カグヤでは、クルー同士別の場所においても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「CCNカグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部抜粋し、日々の実践をご紹介します。

みんなで「おでん」

毎月一度行われる全体会議では、お昼に皆で手作りランチを食べます。今回のメニューは「おでん」。

社内に特設のおでん屋台が登場しました。ハチマキを巻いたクルーの眞田が、おでん屋の主人となり、小話を聞かせながら、具を取り分けてくれます。

単に食事を食べるだけでなく、「遊び心」を働かせてみると、皆で楽しめ、一緒に食べる喜びが深まるようになります。



↑おでん屋「カグヤ」！？

カグヤ酵母

カグヤでは、毎朝天然酵母のパンを食べています。

パンに入っている酵母菌は常に発酵しているため、定期的に冷蔵庫から出し、新鮮な玄米や人参を栄養としてあげています。

「ありがとう」「調子はどう？」などと話し掛けていると、酵母はそれに応じて、プクプクと膨らんでくれます。時には容器から溢れ出ることも。

愛しい酵母菌を載せて、カグヤの1日はスタートしています。



↑2～3倍に膨らみます

蛍光灯事件

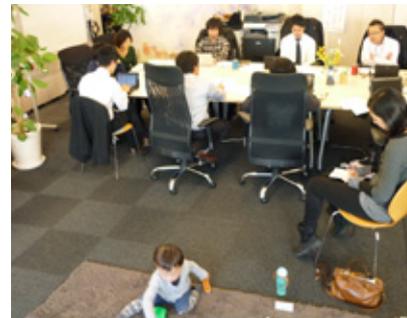
先日、社内の蛍光灯がバタバタと切れていき、全体の2割ほどの電気が点かなくなる事件がありました。原因は単に、蛍光灯の寿命だったのですが、カグヤとしては



↑顔にツヤが出ています

この事件をこのまま終わらせる訳にはいきません。ちょうど社内環境を見直していたので、「これはチャンス！」と、この機会に社内の蛍光灯を全て白色蛍光灯から昼白色に交換しました。昼白色の光は、クルーの顔を明るく見せてくれます。無機質な雰囲気でもなくなったので、気持ちも穏やかになったように感じます。禍転じ…トキメキへ。些細な事件が、実践を生み出しています。

子どものいる会社



↑座って遊べるよう絨毯を敷いています

クルーの秋山は、自宅でカケル君という男の子の育児をしながら働いています。

普段はインターネット電話を使ったり、他のクルーが直接秋山の家へ行き打ち合わせを行っているのですが、全体会議の時などはカケル君を連れて出社することがあります。

大人が会議をしている横で…彼は、おもちゃで遊んだり、社内を散策したり。絶好のタイミングで会議に参加することも…。皆、彼もクルーの一員だと心得ているのか、子どもがいる会議にとっても慣れていきます。子どもがゆったり居心地よさそうにしている空間は、大人にとっても居心地が良いように感じます。そんな空間で会議ができることは、カグヤの自慢です。

一期一会庵

楽しく変わる

先日、千葉にある寺田本家という昔ながらの醸造法で微生物を活かしお酒をつくりをするご当主とご縁がありました。

ここで「楽しく変わる」ということについてこういう話をお聴きました。

「寺田本家で無添加でお酒を造るのも無農薬の原料米を使うのも、そのほうが楽しいからです。手造りにこだわるのも、造っている僕たちがそのほうがワクワクと楽しいからです。正しいことよりも、楽しいことを選ぶと、自然と本物へと近づいていくことでですね。発酵するって楽しいほうへどんどん変わっていくことなのかも知れません。」

この一年間、発酵をテーマに取り組み私が学んだことは常にもっと面白い方や楽しい方へ素直に変化し続けるからいつまでも腐らないということだった気がします。そういうこともあり、竹取新聞もリニューアルすることになりました。

今後子ども達の御役に立てるように皆様と一緒に日々の実践に取り組んでいきたいと思えます。

カグヤは「子ども第一主義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます。



本社
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング2号館10階
tel.03-5909-7155
fax.03-5909-7199

カグヤウェブセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

☎フリーダイヤル 0120-917-389
URL: <http://www.caguya.co.jp>
E-mail: support@caguya.co.jp
受付時間 月～金 9:00～18:00
(土・日曜祝祭日を除く)